

**第 1 回 那賀川左岸堤防地震・津波対策事業環境回復モニタリング委員会
議事概要**

1. 日 時：平成 25 年 8 月 19 日（月） 14：00～16：00

2. 場 所：阿南プラザホテル 2 階 大ホール（鶴の間）

3. 出席委員：

乾 隆帝	委員	（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部特別研究員）
大田 直友	委員	（阿南工業高等専門学校建設システム工学科准教授）
河口 洋一	委員	（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部准教授）
木下 覺	委員	（徳島県植物研究会会長）
酒井 勝司	委員	（四国大学名誉教授）
佐藤 陽一	委員	（徳島県立博物館自然課長）
森本 康滋	委員	（徳島県自然保護協会会長）
湯城 豊勝	委員	（阿南工業高等専門学校副校長）

4. 配付資料：

資料-1 議事次第
資料-2 配席図
資料-3 委員会規約(案)
資料-4 那賀川左岸堤防地震・津波対策事業環境回復モニタリング委員会資料
資料-5 委員配付資料
事業概要 FLOW 2013

5. 議 事：

- (1) 規約の制定、委員長選出
- (2) 地震津波対策事業について
- (3) 環境保全に向けた取り組みについて
- (4) 環境モニタリング調査について
- (5) 今後のスケジュール

6. 議事要旨：

(1) 規約の制定、委員長選出

①規約(案)の説明を行った。

規約案は了承され、規約は平成 25 年 8 月 19 日より施行となった。

②委員長選出が行われ、湯城豊勝委員が委員長に就任した。

(2) 地震津波対策事業について

①特に意見はなし

(3) 環境保全に向けた取り組みについて

①重要種については、種類の確認だけでなく何匹いたかも重要であるため、今後は全体の生息数が把握できる調査や整理をしてもらいたい。

②シオマネキがいるような場所の面積をある程度把握されていることから生息数をコドラート調査結果から推定で算出する方法もある。

③那賀川大橋の下に新たに造成した代償地 1 は想像以上に良くできているので期待が持てる。しかし、現況干潟に合わせて同じ見合いで施工したため法面の勾配が急である。勾配の急な部分に土砂を入れて勾配を緩やかにすることで回復が早くなると思う。

④下流側ワンドの狭窄部で嫌気化の恐れがあるのであれば、DO の測定に加えて、アベハゼなど嫌気化したところにも生息する種を指標として調査する方法もある。

⑤下流ワンドの代償地を創出する掘削範囲と改変範囲の間は、生き物のソースとなっていることからできるだけ影響を与えないようにしたほうがよい。

⑥バックホウでは天地上下がひっくり返るので、クレーン(クラムシェル)を使えばベストだが、可能な限りそのまま持っていけるように作業してほしい。

⑦ヨシの生えている表土を人力でよいので数ブロックだけでも代償地に入れば効果があるかもしれない。

⑧生物の評価も重要だが、実際にどうやって施工したかという手順の記録もしっかり残していくのも重要である。

⑨掘削時には干満があるので濁りの発生にも気をつけないといけない。

(4) 環境モニタリング調査について

①資料で使っているスナガニ科 A、B という種はないので、専門家から見ると間違った使い方であり、正しい種名を使ってほしい。

②環境修復を評価しようとするとき、B A C I デザインの考え方があるので、それに沿うように計画を進めてほしい。

(※B A C I : Before After Control Impact)

③しっかり取り組んでいる事業なので、ある程度の年数(少なくとも 5 年程度)はモニタリング調査を続けてほしい。

(5) 今後のスケジュール

①特に意見はなし

以上の議事を踏まえ、代償措置の考え方、環境モニタリング調査計画書は了承された。

以 上